

新霊・先祖供養の旅

恒例の比叡山団参が三十五名の参加者を得て、無事有意義に行うことが出来ました。今年も、昨年同様に、上野原の法性寺の檀家さんが四名参加して下さいました。

一日目に比叡山の阿弥陀堂にて先祖供養を行い、二日目には、延暦寺会館にて上原阿者梨さんの講話とお加持をしていただきました。その後、伝教大師最澄上人がお祀りされています浄土院へ参拝して、鳥羽に向かいました。宿泊のホテルは、エクシブ鳥羽アネックスで、宴会も大変盛り上がりました。温泉の成分がとても良くてお肌はつるつるになり、日頃の疲れを癒してくれたことと思います。三日目は、鳥羽港からフェリーに乗り、伊良子崎から東名浜松インターにて高速に乗り忍野に無事帰って参りました。天気がとても良くなかったため、フェリーからの景色を楽しんでいただけなっかことが残念でした。

多くの思い出を胸に帰宅しました。

団参スナップ



檀徒の皆様へお願い

仏参金（護寺会費）はお彼岸やお盆などのお墓参りの時にお寺によって納めるようにしましょう

昨今共稼ぎのご家庭も多く、集めて廻る総代さんも、朝・昼・夜と同じ家に 何度も又、何日も足を運んでいるのが現状です。お彼岸やお盆などのお墓参りの時に、お寺によって納めるようにして下さい。納めるときはご仏前の袋に入れて、氏名の他に住所または忍草何組と書き入れて下さい。

今年のお盆に間に合うように、本堂の横に札所を新築しました。お盆の16日とお彼岸の中日には、朝から夕方まで総代さんが、待機していますので、立ち寄って納めて下さい。ご協力をお願いします。

また、口座振り込みをなさる場合は、下記口座に振り込んで下さい。

振込先 山梨中央銀行 忍野支店 普通 121086
宗教法人 東円寺 代表役員 鷹野慈誠（タカノ ジジョウ）

四月二十四日 子育て地蔵尊大祭とオカリナ演奏会
バザーの売り上げが二万六千余円でした。ご協力有難うございました。
四月二十四日、春恒例の東円寺厄除け・子育て地蔵尊のお祭りが、花吹雪の中、盛大に行われました。今年も、お祭りにオカリナ奏者のさとうとともにさんをお招きして、演奏会を開きました。およそ百五十名の方々がお話とオカリナの演奏を楽しみました。バザーも盛況で今年は二万六千八百円でした。昨年同様に忍の図書館に寄贈しました。多くの皆さんの善意、有難うございます。



東圓寺だより

平成21年

お盆号

平成21年 新盆名簿 天台宗 忍草山 東円寺

今年の新盆諸霊をお知らせします。心からご冥福をお祈りいたします

年	月	日	氏名	親	住所
平成20年	7月	22日	大森正揮	父 茂充	神奈川県
		31日	大森敏正	義母 いの枝	
	8月	8日	山崎福蔵	母 はつゑ	吉田
		28日	渡辺吉武	母 いちの	
	9月	17日	天野 憲	母 きく子	吉田
		24日	大森正生	母 さくの	
	10月	14日	渡辺 明	母 耐子	
		18日	大森孝博	父 和博	
	11月	2日	天野義一	父 昭一郎	
			渡辺健二	義母 君子	
		20日	長田利平	妻 やすゑ	神奈川県
			大森光雄	父 松治	
12月	15日	渡辺強平	父 石岡		
		大森悠爾	妻 幸子	神奈川県	
	19日	天野 憲	父 芳男	吉田	
		平成21年			
1月	1日	天野茂子	父 茂忠	吉田	
		菅谷円博	父 国衛	河口湖	
	17日	渡辺和美	夫 和利	八王子	
		大森光起	子 光二	吉田	
2月	4日	渡辺文門	妻 ちと子	吉田	
		大森利弘	父 清		
3月	25日	長田新一	母 とよ子		
		大森好正	父 三郎	吉田	
4月	5日	小野集一	父 典男	吉田	
		長田竜二	母 美好		
6月	21日	天野文人	父 喆		

金融恐慌に加えて、政局も混乱し続けています。民心を忘れて己の政党の拡張のみに奔走している昨今です。このような時こそ、伝教大師最澄上人の遺訓「忘己利他」(己を忘れて他を利用する)の精神が必要ではないでしょうか。まさに今は「利己忘他」の世の中です。だからすべてがメチャクチャになってくるのでしょうか。冥土の旅に持って行ける金は、僅か六文だけです。無欲になりたいものです。

合掌

編集・発行
天台宗 東圓寺
電話: 84-4114
Fax: 84-4104

今年度の寄付者（20年8月～21年7月）

20年11月	渡辺 明殿	本堂用椅子50脚	為母親菩提供養
12月	長田利平殿	金200万円	祠堂金 為妻菩提供養
12月	大森悠爾殿	本堂障子11枚新造	為妻菩提供養
21年 7月	天野文人殿	金100万円	祠堂金 為父親菩提供養

有り難うございました。末永く大切に使用させていただきます。

寺庭のつばやき

檀信徒の皆様には、平素より東円寺に対しまして暖かなご支援誠に有難うございます。今回は、4月24日に行われました東円寺子育て地蔵のお祭り、また6月20日から21日にかけて比叡山への先祖供養団参のお礼を申し上げたいと思います。

今年は、忍草地区の檀徒総代さんが交代いたしました。子育て地蔵のお祭りは、交代後初めての大きな行事となり、奥様方にもお手伝いをして頂きました。昨年同様、神奈川の妙圓寺の奥様やご友人など、多くの皆様のご協力により、盛大に行うことができました。バザーにつきましても、皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

昨年の先祖供養団参は10月でしたが、秋の日は短く、旅行を満喫して頂く事を中心に旅行日程を、日の長い6月に計画いたしました。先祖供養旅行ならではの体験をしていただきたいとの思いから、上原阿者梨さんに、お話しして頂くことをお願いいたしました。皆、親しみを込めて阿者梨さんと呼んでいますが、阿者梨さんは、死の苦行とされる「千日回峯行」を満行された方をいいます。平安時代より現在までの1200年間の内で満行された方は非常に少なく、上原阿者梨さんは49人目の方です。それほどの難行・苦行です。

都留に龍石寺という天台宗三井寺派のお寺があります。そこのご住職さんのご尽力により、阿者梨さんの貴重なお時間を頂戴することができました。延暦寺会館にて、「私の体験話では、自慢話になってしまうから」と質問形式でお話をしてくださいました。食生活についてや、一番大変だったことはどんなことだったのか、幾つかの質問に、とても丁寧に答えて下さいました。その中で、私が心に残ったお話は、「立場が違ってても、今を生きている私たちは、誰かの子であり親であり、後輩であり先輩です。いずれにしても、過去から現在・未来へとバトンを繋いでいくだけです。」と話されたことです。このお話を聞いたとき、私が幼い頃に、祖父母や両親から注意されたことや教えを守り、その事柄を子供達に伝えることができているのだろうか？と、不安になりました。当たり前のことですが、振り返ってみますと、実行できていると言い切れない気持ちがあります。先人達の知恵を未来に託された私は、しっかりと次の世代に伝えて行くことの大切さを、改めて感じさせていただきました。

お話後は、尊いお加持をしていただきました。（お加持とは、生きとし生けるもの、一切の生物に対して、災いを除き願いを叶えるため、仏様の加護を戴くこと）本当に夢のような時間でした。旅行に参加された方に、ぜひ感想を聞いていただきたいと思います。

皆様のお陰で、病人やけが人も出ることなく、先祖供養を行う事ができました。ご協力に感謝申し上げますと共に、来年もお寺の旅行ならではの企画を検討中です。檀信徒の皆様との交流を楽しみにしています。是非ご参加下さいませようお願いいたします。

いよいよお盆も迫り、忙しい日々を送られていることと思いますが、今後とも東円寺に対しての暖かいご支援ご協力をお願いいたします。

大我講と元八湖霊場（忍野八海誕生の秘話）

忍野八海は江戸時代は「忍草元八湖霊場」と呼ばれ、大我講中（富士講の一つ）の禊ぎ池としての聖なる湧水でした。この元八湖は、天保14年（1843年）に、甲州市川大門の、大寄友右衛門という方によって、復興されました。しかし、忍野八海は大我講中の禊ぎ池としての単なる富士山の湧水池として作られたのではなかったのです。真実は、天保の飢饉の影響で、毎日のように死んでいく、多くの忍草の人々を救うために、富士講を利用したとすることがわかりました。一番ひどい年には、一年間に100人以上の村人が死んでいきました。このことは東円寺に残されている、江戸時代の過去帳にも書かれています。大寄友右衛門は、天保の飢饉で死んでいく忍草の様子を、市川大門の代官より聞きました。忍草にやってきた友右衛門は、悲惨な現状を目の当たりにして、何とか人々を助けたいと考えました。忍草には富士山の湧き水が何カ所もありました。この水を利用して、村人を助けようと考えました。当時、此の湧水を管理していたのは、東円寺でした。しかし東円寺は上野の寛永寺の支配下でしたから、寛永寺の許可がなくては、この湧水に手を加えることができません。友右衛門は上野の寛永寺に嘆願しました。しかし、寛永寺は許可しませんでした。なぜなら、前年の天保13年に、徳川幕府は「富士講禁止令」を定めていたからです。友右衛門はそれでも熱心に、忍草の人々が飢饉によって毎日のように死んでいることを訴えました。その時、上野寛永寺の第12代輪王寺門跡、一品法親王様がこのことを聞き入れ、特別に認可がおりました。友右衛門は早速、元八湖（忍野八海）の復興に取りかかります。今のお金で一億円以上の資金を拠出して、工事にかかりました。友右衛門は資産家であるばかりではなく、学問も宗教も、また歌道にも精通していました。多くの湧水の中から、仏教の法華経の教えに基づいて、池を八つ選び、それぞれの池に八大竜王を祀りました。竜王は水の恵の神様です。また、それぞれの池に因んだ和歌も作りました。

さらに、中国の占星術（道教）の教えにより、元八湖を「北斗七星の形にした」、とも書かれています。出口池は北極星にあたります。だから一つだけ池が離れていたのです。東円寺の本堂の天井にもこの星占いに使う、八卦の絵が描かれています。このように学問的にもすばらしく、富士講（大我講）の禊ぎ池として、元八湖は復興されました。その結果、たくさんの方々が富士講中が忍草にやってきて、忍草の人々は飢饉から救われました。

また、それだけではありません。東円寺の本堂の天井には、八卦の絵の他に、鳳凰が四羽描かれています。この絵も天保14年に京都の石清水八幡宮の社士で、中村鍊吉という人が描いたことも判りました。大寄友右衛門は、元八湖を大我講中の禊ぎ池として復興しただけではなく、陰陽道の教えに基づいて、もう二度と天保の飢饉のようなことが、忍草に起きないようにとの願いを込めて、本堂に鳳凰の絵を描いたと言うことも判ってきました。陰陽道によると、竜王は「陰」で、鳳凰は「陽」です。朝日浅間宮を中心として富士山と対峙して、左に陰である竜王、右に陽である鳳凰を祀ったのです。陰と陽である、竜王と鳳凰により、忍草の人々を未来永劫に守ってもらおうとしたのです。お陰でその後はもう再び忍草には、飢饉が訪れませんでした。元八湖（忍野八海）は、富士山からの恵の湧き水だけでなく、忍草の人々を飢饉から救った、お宝なのです。